

2025年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120122031B	スタジオ入門（生川卓弘） STUDIO introduction	生川 卓弘		専門	2	必修	2後期

科目の概要

勉強を意味する「スタディ」と本科目名「スタジオ」の語源は共に「ステュディオス」という何かに熱中、集中している状態を示すラテン語にあるという。つまり本来「スタディ」とは強いて勉めることではなく、夢中になった状態で何かに取り組むことであり、その作業をおこなう場が「スタジオ」である。みなさんには、この「スタジオ」で夢中に「スタディ」してほしい。「スタジオ入門」では3年次に1年間かけて「スタジオ」のプロジェクトに熱中、集中して取り組むための準備を行う。まず、前半では教員が提案するブレ・プロジェクトに参加することにより、「スタジオ」のプロジェクトでチーム活動をしていくためのノウハウを知る。そこで得た経験から、後半では自分たちが3年次にスタジオで展開するプロジェクトの企画を作り上げていく。その中で「新たなライフスタイルの提案」へとつながる実践的な課題解決へ向けて、「ライフスタイル学基礎講座」「ライフスタイル学演習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」をはじめとしたこれまでの学修で身に付けた知識・技能を活用するためにはどうしたらよいのかも考えてもらいたい。本科目とこれにつづく「スタジオA,B,C」は、本学の教育モデル「学びの泉」の実践を通して、自ら学ぶ能力・ともに学ぶ能力を鍛え上げ、ライフスタイルのデザインに必要な専門的知識・技能だけでなく一般的知識・技能を身に付け、人々の日常生活を衣・食・住および地域活性の面から支援することができること（DP1、2、3、4、5）を目指す。さらには、生涯学習社会の中で潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域・国際社会の課題解決に貢献できる（DP6）ことを目指す、ライフスタイル学科のカリキュラムの核となる科目である。

学修内容	到達目標
① スタジオでプロジェクトに取り組む意義を理解する。 ② チームで協力して作業を進めることを経験する。 ③ PDCAサイクルを活用する。 ④ 地域のあるいは自分たち自身の生活の中にどんな課題があるか考える。 ⑤ 課題を抽出し、それを解決するための活動内容を提案する。	① ライフスタイル学科での学びにおけるスタジオのプロジェクトの位置づけが理解できる。 ② チームで協力して作業を進め、課題を達成できる。 ③ PDCAサイクルを活用して、計画的に課題を達成できる。 ④ 地域のあるいは自分たち自身の生活の中から課題を発見することができる。 ⑤ 課題を抽出し、それを解決するための活動内容を提案し実践できる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	目標達成に向け、時間や労力を惜しまず継続して取り組むことができる。
	働きかけ力	目標達成に向け、よりよい協力関係を築くことができるようチームのメンバーに声掛けができる。
	実行力	目標達成のために、困難を乗り越えることができる。
考え抜く力	課題発見力	課題の問題点を客観的に分析し、その解決方法を提案することができる。
	計画力	課題を円滑に進めるためのスケジュール管理ができる。
	創造力	与えられた課題をよりよい解決に導くために複数のアイデアから最善の方策を導き出すことができる。
チームで働く力	発信力	課題の進捗状況を整理し、聞き手に解りやすい工夫を加えながら発表することができる。
	傾聴力	プロジェクトに関わる様々な立場の人と円滑なコミュニケーションをとることができる。
	柔軟性	プロジェクトに関わる様々な立場の異なる意見や価値観を理解し、受け入れることができる。
	状況把握力	目標達成に向け、周りの状況を把握しながら、自分のやるべきことを理解し、行動することができる。
	規律性	課題を円滑に進めるためのルールをメンバー同士で確認し、それを遵守することができる。
	ストレスコントロール力	目標達成のための困難を自己成長の機会と捉え、前向きに受けとめることができる。

テキスト及び参考文献

テキストは用いない。必要に応じてプリント資料を配布する。資料はgoogle classroomにて提示する。
参考書：授業内で適宜紹介していく。

他科目との関連、資格との関連

この科目はライフスタイル学科での学びの軸となる科目であり、ライフスタイル学科で学ぶすべての科目と広く関係している。直接的にはライフスタイル学演習Ⅰ～Ⅲの次に位置し、3年時のスタジオA,B,Cさらには卒業研究へとつながっている。

学修上の助言	受講生とのルール
課題を達成させるためには、チーム内での連携、教員スタッフからの支援を必要とする。積極的に周囲とのコミュニケーションをはかり、全体の協力体制を築いていくよう心がけてほしい。	グループでの作業が基本となるので無断欠席は厳に慎むこと。また、スタジオ学習は、自ら主体的に課題を発見し取り組んでいく科目であり、授業時間内のみでなくそれ以外の多くの時間でも、課題達成に向けての作業が必要になることを理解しておいてほしい。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		レポート	30	①	✓			・提出が義務付けられている自身およびグループの活動記録の提出状況および内容(30点)を評価する。 ※課題はGoogle classroom等で提出 獲得…記録の付け方を学ぶ (30%) 活用…詳細に記録を残す (30%) 解決…PDCAサイクルを回すために有効な記録を作成する (40%)
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	60	①	✓			・ブレ・プロジェクトでの活動内容(30点) ・スタジオプロジェクトの企画プレゼンテーションの内容(30点)を評価する。 ただし、評価はグループ内で一律ではなく、活動、発表等に対する各人の貢献度によって異なる。 ※企画書とプレゼンテーションのデータはGoogle classroomで提出 獲得…活動の参考となる事例を収集する (20%) 活用…活動計画を策定する (30%) 解決…ブレ・プロジェクトを実施する／次年度プロジェクト案をプレゼンテーションする／次年度プロジェクトの企画書を作成する (50%)
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			【主体性】目標達成に向け、時間や労力を惜しまず継続して取り組むことができる。 【働きかけ力】目標達成に向け、よりよい協力関係を築くことができるようチームのメンバーに声掛けができる。 【実行力】目標達成のために、困難を乗り越えることができる。 【課題発見力】課題の問題点を客観的に分析し、その解決方法を提案することができる。 【計画力】課題を円滑に進めるためのスケジュール管理ができる。 【創造力】与えられた課題をよりよい解決に導くために複数のアイデアから最善の方策を導き出すことができる。 【発信力】課題の進捗状況を整理し、聞き手に解りやすい工夫を加えながら発表することができる。 【傾聴力】プロジェクトに関わる様々な立場の人と円滑なコミュニケーションをとることができる。 【柔軟性】プロジェクトに関わる様々な立場の異なる意見や価値観を理解し、受け入れることができる。 【状況把握力】目標達成に向け、周りの状況を把握しながら、自分のやるべきことを理解し、行動することができる。 【規律性】課題を円滑に進めるためのルールをメンバー同士で確認し、それを遵守することができる。 【ストレスコントロール】目標達成のための困難を自己成長の機会と捉え、前向きに受けとめることができる。		
		②	✓					
		③	✓					
		④	✓					
		⑤	✓					
学修行動	総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
・自分の役割を認識し、課題の解決に向けて積極的に取り組んでいる。 ・活動報告が詳細に記録され、期日を守って提出されている。 上記項目を満たし、グループワークにおいて高い貢献が認められた場合にS（秀）評価とする。	・協力的な態度で課題に取り組んでいる。 ・活動報告がきちんと記録され、提出されている。 以上の条件が満たされた場合にB評価とする。 C評価の基準は授業計画「到達レベルC(可)の基準」に準ずる。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	オリエンテーション 「スタジオ入門」と 「スタジオA, B, C」の 活動について 教員が提案するプレ・ プロジェクトの中から 自分が興味・関心のある プロジェクトを選 び、参加する。	レクチャー	スタジオ学習とは何か が理解できる。 プレ・プロジェクトに 登録できる。	(予習) シラバスを読 んで科目の概要を把握 しておく。 (復習) プロジェクト を考えるために先行事 例の収集をおこなう (以降、継続)。	180	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力
2-8	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト)	グループ活動 ミーティング	プロジェクトの活動に 積極的に参加できる。	(予習) 自身が参加する プロジェクトの活動 内容を確認しておく。 (復習) 活動記録を作 成する。 ※時間外にも積極的に 活動に参加する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
9	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト) の振り 返り① 「何に取り組んだか」 の振り返り	グループワーク プレゼンテーション プレゼンテーションに 対するフィードバック	自身が参加したプロ ジェクトの活動内容が 発表できる。	(予習) 発表準備: プ ロジェクトの活動内容 をグループでまとめ る。 (復習) 発表内容につ いてのコメントから自 分達の活動を再度振り 返る。	180	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
10	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト) の振り 返り② 「チームとしてどのよ うに取り組んだか」の 振り返り	グループワーク	プロジェクトに対する 自身のあるいはグル ープでの取り組みを自分 達で評価できる。	(予習) 活動記録を整 理し、自分達のプロ ジェクトへの組み 方を整理しておく。 (復習) 振り返りの結 果から、プロジェクト を成功に導くためのポ イントを再考する。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
11- 13	プロジェクトをつくる その1~3 企画案の検討	グループワーク	グループで協力し、次 年スタジオプロジェク トの企画案を作成する ことができる。	(予習) プロジェクト を考えるために先行事 例の収集をおこなう。 (復習) 先行事例の調 査(継続) / プレ・ス タジオ体験をもとに、 自分が取り組んでみた いプロジェクトを考え る。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
14	プロジェクトをつくる その4 プロジェクトの提案	ポスター発表 ディスカッション	グループで協力し、次 年度スタジオプロジェ クトの企画案の提案が できる。	(予習) プレゼンテー ション用の資料を作成 する。 (復習) 教員のアドバ イスから企画案の改善 をおこなう。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
15	プロジェクトをつくる その5 企画書の作成	グループワーク	グループで協力し、次 年度スタジオプロジェ クトの企画書が作成で きる。	(予習) 教員のアドバ イスから企画案の改善 をおこなう。 (復習) 指定された期 日までに企画書を完成 させる。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2025年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120122031C	スタジオ入門（小野憲一） STUDIO introduction	小野 憲一		専門	2	必修	2後期

科目の概要 勉強を意味する「スタディ」と本科目名「スタジオ」の語源は共に「ステュディオス」という何かに熱中、集中している状態を示すラテン語にあるという。つまり本来「スタディ」とは強いて勉めることではなく、夢中になった状態で何かに取り組むことであり、その作業をおこなう場が「スタジオ」である。みなさんには、この「スタジオ」で夢中に「スタディ」してほしい。「スタジオ入門」では3年次に1年間かけて「スタジオ」のプロジェクトに熱中、集中して取り組むための準備を行う。まず、前半では教員が提案するブレ・プロジェクトに参加することにより、「スタジオ」のプロジェクトでチーム活動をしていくためのノウハウを知る。そこで得た経験から、後半では自分たちが3年次にスタジオで展開するプロジェクトの企画を作り上げていく。その中で「新たなライフスタイルの提案」へとつながる実践的な課題解決へ向けて、「ライフスタイル学基礎講座」「ライフスタイル学演習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」をはじめとしたこれまでの学修で身に付けた知識・技能を活用するためにはどうしたらよいのかも考えてもらいたい。本科目とこれにつづく「スタジオA,B,C」は、本学の教育モデル「学びの泉」の実践を通して、自ら学ぶ能力・ともに学ぶ能力を鍛え上げ、ライフスタイルのデザインに必要な専門的知識・技能だけでなく一般的知識・技能を身に付け、人々の日常生活を衣・食・住および地域活性の面から支援することができること（DP1、2、3、4、5）を目指す。さらには、生涯学習社会の中で潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域・国際社会の課題解決に貢献できる（DP6）ことを目指す、ライフスタイル学科のカリキュラムの核となる科目である。
--

学修内容	到達目標
① スタジオでプロジェクトに取り組む意義を理解する。 ② チームで協力して作業を進めることを経験する。 ③ PDCAサイクルを活用する。 ④ 地域のあるいは自分たち自身の生活の中にどんな課題があるか考える。 ⑤ 課題を抽出し、それを解決するための活動内容を提案する。	① ライフスタイル学科での学びにおけるスタジオのプロジェクトの位置づけが理解できる。 ② チームで協力して作業を進め、課題を達成できる。 ③ PDCAサイクルを活用して、計画的に課題を達成できる。 ④ 地域のあるいは自分たち自身の生活の中から課題を発見することができる。 ⑤ 課題を抽出し、それを解決するための活動内容を提案し実践できる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例	
前に踏み出す力	主体性	目標達成に向け、時間や労力を惜しまず継続して取り組むことができる。
	働きかけ力	目標達成に向け、よりよい協力関係を築くことができるようチームのメンバーに声掛けができる。
	実行力	目標達成のために、困難を乗り越えることができる。
考え抜く力	課題発見力	課題の問題点を客観的に分析し、その解決方法を提案することができる。
	計画力	課題を円滑に進めるためのスケジュール管理ができる。
	創造力	与えられた課題をよりよい解決に導くために複数のアイデアから最善の方策を導き出すことができる。
チームで働く力	発信力	課題の進捗状況を整理し、聞き手に解りやすい工夫を加えながら発表することができる。
	傾聴力	プロジェクトに関わる様々な立場の人と円滑なコミュニケーションをとることができる。
	柔軟性	プロジェクトに関わる様々な立場の異なる意見や価値観を理解し、受け入れることができる。
	状況把握力	目標達成に向け、周りの状況を把握しながら、自分のやるべきことを理解し、行動することができる。
	規律性	課題を円滑に進めるためのルールをメンバー同士で確認し、それを遵守することができる。
	ストレスコントロール力	目標達成のための困難を自己成長の機会と捉え、前向きに受けとめることができる。

テキスト及び参考文献 テキストは用いない。必要に応じてプリント資料を配布する。資料はgoogle classroomにて提示する。 参考書：授業内で適宜紹介していく。
--

他科目との関連、資格との関連 この科目はライフスタイル学科での学びの軸となる科目であり、ライフスタイル学科で学ぶすべての科目と広く関係している。直接的にはライフスタイル学演習Ⅰ～Ⅲの次に位置し、3年時のスタジオA,B,Cさらには卒業研究へとつながっている。
--

学修上の助言	受講生とのルール
課題を達成させるためには、チーム内での連携、教員スタッフからの支援を必要とする。積極的に周囲とのコミュニケーションをはかり、全体の協力体制を築いていくよう心がけてほしい。	グループでの作業が基本となるので無断欠席は厳に慎むこと。また、スタジオ学習は、自ら主体的に課題を発見し取り組んでいく科目であり、授業時間内のみでなくそれ以外の多くの時間でも、課題達成に向けての作業が必要になることを理解しておいてほしい。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		レポート	30	①	✓			・提出が義務付けられている自身およびグループの活動記録の提出状況および内容(30点)を評価する。 ※課題はGoogle classroom等で提出 獲得…記録の付け方を学ぶ (10/30点…33.3%) 活用…詳細に記録を残す (10/30点…33.3%) 解決…PDCAサイクルを回すために有効な記録を作成する (10/30点…33.3%)
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	60	①	✓			・ブレ・プロジェクトでの活動内容(30点) ・スタジオプロジェクトの企画プレゼンテーションの内容(30点)を評価する。 ただし、評価はグループ内で一律ではなく、活動、発表等に対する各人の貢献度によって異なる。 ※企画書とプレゼンテーションのデータはGoogle classroomで提出 獲得…活動の参考となる事例を収集する (9/60点…15%) 活用…活動計画を策定する (18/60点…30%) 解決…ブレ・プロジェクトを実施する／次年度プロジェクト案をプレゼンテーションする／次年度プロジェクトの企画書を作成する (33/60点…55%)
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
	学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			【主体性】目標達成に向け、時間や労力を惜しまず継続して取り組むことができる。 【働きかけ力】目標達成に向け、よりよい協力関係を築くことができるようチームのメンバーに声掛けができる。 【実行力】目標達成のために、困難を乗り越えることができる。 【課題発見力】課題の問題点を客観的に分析し、その解決方法を提案することができる。 【計画力】課題を円滑に進めるためのスケジュール管理ができる。 【創造力】与えられた課題をよりよい解決に導くために複数のアイデアから最善の方策を導き出すことができる。 【発信力】課題の進捗状況を整理し、聞き手に解りやすい工夫を加えながら発表することができる。 【傾聴力】プロジェクトに関わる様々な立場の人と円滑なコミュニケーションをとることができる。 【柔軟性】プロジェクトに関わる様々な立場の異なる意見や価値観を理解し、受け入れることができる。 【状況把握力】目標達成に向け、周りの状況を把握しながら、自分のやるべきことを理解し、行動することができる。 【規律性】課題を円滑に進めるためのルールをメンバー同士で確認し、それを遵守することができる。 【ストレスコントロール力】目標達成のための困難を自己成長の機会と捉え、前向きに受けとめることができる。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
総合評価割合				100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
・自分の役割を認識し、課題の解決に向けて積極的に取り組んでいる。 ・活動報告が詳細に記録され、期日を守って提出されている。 上記項目を満たし、グループワークにおいて高い貢献が認められた場合にS（秀）評価とする。	・協力的な態度で課題に取り組んでいる。 ・活動報告がきちんと記録され、提出されている。 以上の条件が満たされた場合にB評価とする。 C評価の基準は授業計画「到達レベルC(可)の基準」に準ずる。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	オリエンテーション 「スタジオ入門」と 「スタジオA, B, C」の 活動について 教員が提案するプレ・ プロジェクトの中から 自分が興味・関心のある プロジェクトを選 び、参加する。	レクチャー	スタジオ学習とは何か が理解できる。 プレ・プロジェクトに 登録できる。	(予習) シラバスを読 んで科目の概要を把握 しておく。 (復習) プロジェクト を考えるために先行事 例の収集をおこなう (以降、継続)。	180	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力
2-8	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト)	グループ活動 ミーティング	プロジェクトの活動に 積極的に参加できる。	(予習) 自身が参加する プロジェクトの活動 内容を確認しておく。 (復習) 活動記録を作 成する。 ※時間外にも積極的に 活動に参加する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
9	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト) の振り 返り① 「何に取り組んだか」 の振り返り	グループワーク プレゼンテーション プレゼンテーションに 対するフィードバック	自身が参加したプロ ジェクトの活動内容が 発表できる。	(予習) 発表準備: プ ロジェクトの活動内容 をグループでまとめ る。 (復習) 発表内容につ いてのコメントから自 分達の活動を再度振り 返る。	180	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
10	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト) の振り 返り② 「チームとしてどのよ うに取り組んだか」の 振り返り	グループワーク	プロジェクトに対する 自身のあるいはグル ープでの取り組みを自分 達で評価できる。	(予習) 活動記録を整 理し、自分達のプロ ジェクトへの組み 方を整理しておく。 (復習) 振り返りの結 果から、プロジェクト を成功に導くためのポ イントを再考する。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
11- 13	プロジェクトをつくる その1~3 企画案の検討	グループワーク	グループで協力し、次 年スタジオプロジェク トの企画案を作成する ことができる。	(予習) プロジェクト を考えるために先行事 例の収集をおこなう。 (復習) 先行事例の調 査(継続) / プレ・ス タジオ体験をもとに、 自分に取り組んでみた いプロジェクトを考え る。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
14	プロジェクトをつくる その4 プロジェクトの提案	ポスター発表 ディスカッション	グループで協力し、次 年度スタジオプロジェ クトの企画案の提案が できる。	(予習) プレゼンテー ション用の資料を作成 する。 (復習) 教員のアドバ イスから企画案の改善 をおこなう。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
15	プロジェクトをつくる その5 企画書の作成	グループワーク	グループで協力し、次 年度スタジオプロジェ クトの企画書が作成で きる。	(予習) 教員のアドバ イスから企画案の改善 をおこなう。 (復習) 指定された期 日までに企画書を完成 させる。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2025年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120122031E	スタジオ入門（山口佐和子） STUDIO introduction	山口 佐和子		専門	2	必修	2後期

科目の概要

勉強を意味する「スタディ」と本科目名「スタジオ」の語源は共に「ステュディオス」という何かに熱中、集中している状態を示すラテン語にあるという。つまり本来「スタディ」とは強いて勉めることではなく、夢中になった状態で何かに取り組むことであり、その作業をおこなう場が「スタジオ」である。みなさんには、この「スタジオ」で夢中に「スタディ」してほしい。「スタジオ入門」では3年次に1年間かけて「スタジオ」のプロジェクトに熱中、集中して取り組むための準備を行う。まず、前半では教員が提案するブレ・プロジェクトに参加することにより、「スタジオ」のプロジェクトでチーム活動をしていくためのノウハウを知る。そこで得た経験から、後半では自分たちが3年次にスタジオで展開するプロジェクトの企画を作り上げていく。その中で「新たなライフスタイルの提案」へとつながる実践的な課題解決へ向けて、「ライフスタイル学基礎講座」「ライフスタイル学演習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」をはじめとしたこれまでの学修で身に付けた知識・技能を活用するためにはどうしたらよいのかも考えてもらいたい。本科目とこれにつづく「スタジオA,B,C」は、本学の教育モデル「学びの泉」の実践を通して、自ら学ぶ能力・ともに学ぶ能力を鍛え上げ、ライフスタイルのデザインに必要な専門的知識・技能だけでなく一般的知識・技能を身に付け、人々の日常生活を衣・食・住および地域活性の面から支援することができること（DP1、2、3、4、5）を目指す。さらには、生涯学習社会の中で潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域・国際社会の課題解決に貢献できる（DP6）ことを目指す、ライフスタイル学科のカリキュラムの核となる科目である。

学修内容	到達目標
① スタジオでプロジェクトに取り組む意義を理解する。 ② チームで協力して作業を進めることを経験する。 ③ PDCAサイクルを活用する。 ④ 地域のあるいは自分たち自身の生活の中にどんな課題があるか考える。 ⑤ 課題を抽出し、それを解決するための活動内容を提案する。	① ライフスタイル学科での学びにおけるスタジオのプロジェクトの位置づけが理解できる。 ② チームで協力して作業を進め、課題を達成できる。 ③ PDCAサイクルを活用して、計画的に課題を達成できる。 ④ 地域のあるいは自分たち自身の生活の中から課題を発見することができる。 ⑤ 課題を抽出し、それを解決するための活動内容を提案し実践できる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	目標達成に向け、時間や労力を惜しまず継続して取り組むことができる。
	働きかけ力	目標達成に向け、よりよい協力関係を築くことができるようチームのメンバーに声掛けができる。
	実行力	目標達成のために、困難を乗り越えることができる。
考え抜く力	課題発見力	課題の問題点を客観的に分析し、その解決方法を提案することができる。
	計画力	課題を円滑に進めるためのスケジュール管理ができる。
	創造力	与えられた課題をよりよい解決に導くために複数のアイデアから最善の方策を導き出すことができる。
チームで働く力	発信力	課題の進捗状況を整理し、聞き手に解りやすい工夫を加えながら発表することができる。
	傾聴力	プロジェクトに関わる様々な立場の人と円滑なコミュニケーションをとることができる。
	柔軟性	プロジェクトに関わる様々な立場の異なる意見や価値観を理解し、受け入れることができる。
	状況把握力	目標達成に向け、周りの状況を把握しながら、自分のやるべきことを理解し、行動することができる。
	規律性	課題を円滑に進めるためのルールをメンバー同士で確認し、それを遵守することができる。
	ストレスコントロール力	目標達成のための困難を自己成長の機会と捉え、前向きに受けとめることができる。

テキスト及び参考文献

テキストは用いない。必要に応じてプリント資料を配布する。資料はgoogle classroomにて提示する。
参考書：授業内で適宜紹介していく。

他科目との関連、資格との関連

この科目はライフスタイル学科での学びの軸となる科目であり、ライフスタイル学科で学ぶすべての科目と広く関係している。直接的にはライフスタイル学演習Ⅰ～Ⅲの次に位置し、3年時のスタジオA,B,Cさらには卒業研究へとつながっている。

学修上の助言	受講生とのルール
課題を達成させるためには、チーム内での連携、教員スタッフからの支援を必要とする。積極的に周囲とのコミュニケーションをはかり、全体の協力体制を築いていくよう心がけてほしい。	グループでの作業が基本となるので無断欠席は厳に慎むこと。また、スタジオ学習は、自ら主体的に課題を発見し取り組んでいく科目であり、授業時間内のみでなくそれ以外の多くの時間でも、課題達成に向けての作業が必要になることを理解しておいてほしい。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		レポート	30	①	✓			・自身およびグループの活動記録の提出状況、および内容の評価する。 ※課題はGoogle classroom等で提出 獲得…記録の付け方を学ぶ（30%） 活用…詳細に記録を残す（30%） 解決…PDCAサイクルを回すために有効な記録を作成する（40%）
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	60	①	✓			・ブレ・プロジェクトでの活動内容、スタジオプロジェクトの企画プレゼンテーションの内容を評価する。 評価はグループ内で一律ではなく、活動、発表等に対する各人の貢献度によって異なる。 ※企画書とプレゼンテーションのデータはGoogle classroom等で提出 獲得…活動の参考となる事例を収集する（20%） 活用…活動計画を策定する（30%） 解決…ブレ・プロジェクトを実施する／次年度プロジェクト案をプレゼンテーションする／次年度プロジェクトの企画書を作成する（50%）
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			【主体性】目標達成に向け、時間や労力を惜しまず継続して取り組むことができる。 【働きかけ力】目標達成に向け、よりよい協力関係を築くことができるようチームのメンバーに声掛けができる。 【実行力】目標達成のために、困難を乗り越えることができる。 【課題発見力】課題の問題点を客観的に分析し、その解決方法を提案することができる。 【計画力】課題を円滑に進めるためのスケジュール管理ができる。 【創造力】与えられた課題をよりよい解決に導くために複数のアイデアから最善の方策を導き出すことができる。 【発信力】課題の進捗状況を整理し、聞き手に解りやすい工夫を加えながら発表することができる。 【傾聴力】プロジェクトに関わる様々な立場の人と円滑なコミュニケーションをとることができる。 【柔軟性】プロジェクトに関わる様々な立場の異なる意見や価値観を理解し、受け入れることができる。 【状況把握力】目標達成に向け、周りの状況を把握しながら、自分のやるべきことを理解し、行動することができる。 【規律性】課題を円滑に進めるためのルールをメンバー同士で確認し、それを遵守することができる。 【ストレスコントロール力】目標達成のための困難を自己成長の機会と捉え、前向きに受けとめることができる。	
			②	✓				
			③	✓				
			④	✓				
			⑤	✓				
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
・自分の役割を認識し、課題の解決に向けて積極的に取り組んでいる。 ・活動報告が詳細に記録され、期日を守って提出されている。 上記項目を満たし、グループワークにおいて高い貢献が認められた場合にS（秀）評価とする。	・協力的な態度で課題に取り組んでいる。 ・活動報告がきちんと記録され、提出されている。 以上の条件が満たされた場合にB評価とする。 C評価の基準は授業計画「到達レベルC(可)の基準」に準ずる。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	オリエンテーション 「スタジオ入門」と 「スタジオA, B, C」の 活動について 教員が提案するプレ・ プロジェクトの中から 自分が興味・関心のある プロジェクトを選 び、参加する。	レクチャー	スタジオ学習とは何か が理解できる。 プレ・プロジェクトに 登録できる。	(予習) シラバスを読 んで科目の概要を把握 しておく。 (復習) プロジェクト を考えるために先行事 例の収集をおこなう (以降、継続)。	180	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力
2-8	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト)	グループ活動 ミーティング	プロジェクトの活動に 積極的に参加できる。	(予習) 自身が参加する プロジェクトの活動 内容を確認しておく。 (復習) 活動記録を作 成する。 ※時間外にも積極的に 活動に参加する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
9	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト) の振り 返り① 「何に取り組んだか」 の振り返り	グループワーク プレゼンテーション プレゼンテーションに 対するフィードバック	自身が参加したプロ ジェクトの活動内容が 発表できる。	(予習) 発表準備: プ ロジェクトの活動内容 をグループでまとめ る。 (復習) 発表内容につ いてのコメントから自 分達の活動を再度振り 返る。	180	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
10	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト) の振り 返り② 「チームとしてどのよ うに取り組んだか」の 振り返り	グループワーク	プロジェクトに対する 自身のあるいはグル ープでの取り組みを自分 達で評価できる。	(予習) 活動記録を整 理し、自分達のプロ ジェクトへの組み 方を整理しておく。 (復習) 振り返りの結 果から、プロジェクト を成功に導くためのポ イントを再考する。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
11- 13	プロジェクトをつくる その1~3 企画案の検討	グループワーク	グループで協力し、次 年スタジオプロジェク トの企画案を作成する ことができる。	(予習) プロジェクト を考えるために先行事 例の収集をおこなう。 (復習) 先行事例の調 査(継続) / プレ・ス タジオ体験をもとに、 自分に取り組んでみた いプロジェクトを考え る。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
14	プロジェクトをつくる その4 プロジェクトの提案	ポスター発表 ディスカッション	グループで協力し、次 年度スタジオプロジェ クトの企画案の提案が できる。	(予習) プレゼンテー ション用の資料を作成 する。 (復習) 教員のアドバ イスから企画案の改善 をおこなう。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
15	プロジェクトをつくる その5 企画書の作成	グループワーク	グループで協力し、次 年度スタジオプロジェ クトの企画書が作成で きる。	(予習) 教員のアドバ イスから企画案の改善 をおこなう。 (復習) 指定された期 日までに企画書を完成 させる。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2025年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120122031G	スタジオ入門（今泉充啓） STUDIO introduction	今泉 充啓		専門	2	必修	2後期

科目の概要 勉強を意味する「スタディ」と本科目名「スタジオ」の語源は共に「ステュディオス」という何かに熱中、集中している状態を示すラテン語にあるという。つまり本来「スタディ」とは強いて勉めることではなく、夢中になった状態で何かに取り組むことであり、その作業をおこなう場が「スタジオ」である。みなさんには、この「スタジオ」で夢中に「スタディ」してほしい。「スタジオ入門」では3年次に1年間かけて「スタジオ」のプロジェクトに熱中、集中して取り組むための準備を行う。まず、前半では教員が提案するブレ・プロジェクトに参加することにより、「スタジオ」のプロジェクトでチーム活動をしていくためのノウハウを知る。そこで得た経験から、後半では自分たちが3年次にスタジオで展開するプロジェクトの企画を作り上げていく。その中で「新たなライフスタイルの提案」へとつながる実践的な課題解決へ向けて、「ライフスタイル学基礎講座」「ライフスタイル学演習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」をはじめとしたこれまでの学修で身に付けた知識・技能を活用するためにはどうしたらよいのかも考えてもらいたい。本科目とこれにつづく「スタジオA,B,C」は、本学の教育モデル「学びの泉」の実践を通して、自ら学ぶ能力・ともに学ぶ能力を鍛え上げ、ライフスタイルのデザインに必要な専門的知識・技能だけでなく一般的知識・技能を身に付け、人々の日常生活を衣・食・住および地域活性の面から支援することができること（DP1、2、3、4、5）を目指す。さらには、生涯学習社会の中で潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域・国際社会の課題解決に貢献できる（DP6）ことを目指す、ライフスタイル学科のカリキュラムの核となる科目である。
--

学修内容	到達目標
① スタジオでプロジェクトに取り組む意義を理解する。 ② チームで協力して作業を進めることを経験する。 ③ PDCAサイクルを活用する。 ④ 地域のあるいは自分たち自身の生活の中にどんな課題があるか考える。 ⑤ 課題を抽出し、それを解決するための活動内容を提案する。	① ライフスタイル学科での学びにおけるスタジオのプロジェクトの位置づけが理解できる。 ② チームで協力して作業を進め、課題を達成できる。 ③ PDCAサイクルを活用して、計画的に課題を達成できる。 ④ 地域のあるいは自分たち自身の生活の中から課題を発見することができる。 ⑤ 課題を抽出し、それを解決するための活動内容を提案し実践できる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	目標達成に向け、時間や労力を惜しまず継続して取り組むことができる。
	働きかけ力	目標達成に向け、よりよい協力関係を築くことができるようチームのメンバーに声掛けができる。
	実行力	目標達成のために、困難を乗り越えることができる。
考え抜く力	課題発見力	課題の問題点を客観的に分析し、その解決方法を提案することができる。
	計画力	課題を円滑に進めるためのスケジュール管理ができる。
	創造力	与えられた課題をよりよい解決に導くために複数のアイデアから最善の方策を導き出すことができる。
チームで働く力	発信力	課題の進捗状況を整理し、聞き手に解りやすい工夫を加えながら発表することができる。
	傾聴力	プロジェクトに関わる様々な立場の人と円滑なコミュニケーションをとることができる。
	柔軟性	プロジェクトに関わる様々な立場の異なる意見や価値観を理解し、受け入れることができる。
	状況把握力	目標達成に向け、周りの状況を把握しながら、自分のやるべきことを理解し、行動することができる。
	規律性	課題を円滑に進めるためのルールをメンバー同士で確認し、それを遵守することができる。
	ストレスコントロール力	目標達成のための困難を自己成長の機会と捉え、前向きに受けとめることができる。

テキスト及び参考文献 テキストは用いない。必要に応じてプリント資料を配布する。資料はgoogle classroomにて提示する。 参考書：授業内で適宜紹介していく。
--

他科目との関連、資格との関連 この科目はライフスタイル学科での学びの軸となる科目であり、ライフスタイル学科で学ぶすべての科目と広く関係している。直接的にはライフスタイル学演習Ⅰ～Ⅲの次に位置し、3年時のスタジオA,B,Cさらには卒業研究へとつながっている。
--

学修上の助言	受講生とのルール
課題を達成させるためには、チーム内での連携、教員スタッフからの支援を必要とする。積極的に周囲とのコミュニケーションをはかり、全体の協力体制を築いていくよう心がけてほしい。	グループでの作業が基本となるので無断欠席は厳に慎むこと。また、スタジオ学習は、自ら主体的に課題を発見し取り組んでいく科目であり、授業時間内のみでなくそれ以外の多くの時間でも、課題達成に向けての作業が必要になることを理解しておいてほしい。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		レポート	30	①	✓			・自身およびグループの活動記録の提出状況、および内容の評価する。 ※課題はGoogle classroom等で提出 獲得…記録の付け方を学ぶ（30%） 活用…詳細に記録を残す（30%） 解決…PDCAサイクルを回すために有効な記録を作成する（40%）
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	60	①	✓			・ブレ・プロジェクトでの活動内容、スタジオプロジェクトの企画プレゼンテーションの内容を評価する。 評価はグループ内で一律ではなく、活動、発表等に対する各人の貢献度によって異なる。 ※企画書とプレゼンテーションのデータはGoogle classroom等で提出 獲得…活動の参考となる事例を収集する（20%） 活用…活動計画を策定する（30%） 解決…ブレ・プロジェクトを実施する／次年度プロジェクト案をプレゼンテーションする／次年度プロジェクトの企画書を作成する（50%）
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			【主体性】目標達成に向け、時間や労力を惜しまず継続して取り組むことができる。 【働きかけ力】目標達成に向け、よりよい協力関係を築くことができるようチームのメンバーに声掛けができる。 【実行力】目標達成のために、困難を乗り越えることができる。 【課題発見力】課題の問題点を客観的に分析し、その解決方法を提案することができる。 【計画力】課題を円滑に進めるためのスケジュール管理ができる。 【創造力】与えられた課題をよりよい解決に導くために複数のアイデアから最善の方策を導き出すことができる。 【発信力】課題の進捗状況を整理し、聞き手に解りやすい工夫を加えながら発表することができる。 【傾聴力】プロジェクトに関わる様々な立場の人と円滑なコミュニケーションをとることができる。 【柔軟性】プロジェクトに関わる様々な立場の異なる意見や価値観を理解し、受け入れることができる。 【状況把握力】目標達成に向け、周りの状況を把握しながら、自分のやるべきことを理解し、行動することができる。 【規律性】課題を円滑に進めるためのルールをメンバー同士で確認し、それを遵守することができる。 【ストレスコントロール力】目標達成のための困難を自己成長の機会と捉え、前向きに受けとめることができる。	
			②	✓				
			③	✓				
			④	✓				
			⑤	✓				
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
・自分の役割を認識し、課題の解決に向けて積極的に取り組んでいる。 ・活動報告が詳細に記録され、期日を守って提出されている。 上記項目を満たし、グループワークにおいて高い貢献が認められた場合にS（秀）評価とする。	・協力的な態度で課題に取り組んでいる。 ・活動報告がきちんと記録され、提出されている。 以上の条件が満たされた場合にB評価とする。 C評価の基準は授業計画「到達レベルC(可)の基準」に準ずる。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	オリエンテーション 「スタジオ入門」と 「スタジオA, B, C」の 活動について 教員が提案するプレ・ プロジェクトの中から 自分が興味・関心のある プロジェクトを選 び、参加する。	レクチャー	スタジオ学習とは何か が理解できる。 プレ・プロジェクトに 登録できる。	(予習) シラバスを読 んで科目の概要を把握 しておく。 (復習) プロジェクト を考えるために先行事 例の収集をおこなう (以降、継続)。	180	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力
2-8	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト)	グループ活動 ミーティング	プロジェクトの活動に 積極的に参加できる。	(予習) 自身が参加する プロジェクトの活動 内容を確認しておく。 (復習) 活動記録を作 成する。 ※時間外にも積極的に 活動に参加する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
9	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト) の振り 返り① 「何に取り組んだか」 の振り返り	グループワーク プレゼンテーション プレゼンテーションに 対するフィードバック	自身が参加したプロ ジェクトの活動内容が 発表できる。	(予習) 発表準備: プ ロジェクトの活動内容 をグループでまとめ る。 (復習) 発表内容につ いてのコメントから自 分達の活動を再度振り 返る。	180	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
10	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト) の振り 返り② 「チームとしてどのよ うに取り組んだか」の 振り返り	グループワーク	プロジェクトに対する 自身のあるいはグル ープでの取り組みを自分 達で評価できる。	(予習) 活動記録を整 理し、自分達のプロ ジェクトへの組み 方を整理しておく。 (復習) 振り返りの結 果から、プロジェクト を成功に導くためのポ イントを再考する。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
11- 13	プロジェクトをつくる その1~3 企画案の検討	グループワーク	グループで協力し、次 年スタジオプロジェク トの企画案を作成する ことができる。	(予習) プロジェクト を考えるために先行事 例の収集をおこなう。 (復習) 先行事例の調 査(継続) / プレ・ス タジオ体験をもとに、 自分が取り組んでみた いプロジェクトを考え る。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
14	プロジェクトをつくる その4 プロジェクトの提案	ポスター発表 ディスカッション	グループで協力し、次 年度スタジオプロジェ クトの企画案の提案が できる。	(予習) プレゼンテー ション用の資料を作成 する。 (復習) 教員のアドバ イスから企画案の改善 をおこなう。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
15	プロジェクトをつくる その5 企画書の作成	グループワーク	グループで協力し、次 年度スタジオプロジェ クトの企画書が作成で きる。	(予習) 教員のアドバ イスから企画案の改善 をおこなう。 (復習) 指定された期 日までに企画書を完成 させる。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力